

## 選考委員のコメント

○児童の実態を踏まえた取り組みである。単なる知識の習得ではなく、自ら著作権を尊重しようとする態度まで育成することを目指し、著作権者の心情を捉える活動、自ら行動させる活動等、工夫された取り組みが示されている点が良い。その他、教科と連携、工夫された学習カード・板書計画等、著作権教育を充実させるための様々な検討がなされた優れた実践である

○桑田佳祐さんの震災復興の歌を題材にしたことは、震災という身近な出来事から子供達のチャリティや復興支援という意識に共感させ、興味関心に繋がったと感じる。新聞という紙媒体にまとめたことも分かりやすいと思う。

○教科学習と関連させたり、身近な事例を提示したりすることで、自分に関係のある問題として捉えさせ、考えさせる手法は素晴らしい。著作権について調べたことを成果物にまとめる活動はよく目にするが、それを他者が実際に利用して学習を進めるケースは少ないので感心した。きめ細やかに指導されており、他の学校でも実践できる内容となっている。

○「制作者の思いを守る」という積極的な動機と、自分で考え「自分なら」を意識の中心に据えて行動することを重視している点、また最後に学んだ著作権について「はがき新聞」を作って、定着を図っている点が素晴らしい。

○インターネットでの調べ学習において、安易に著作物を使用している行動を問題とし、著作権制度の法律とともに、自分だったらと考えさせることで作者の気持ちへの気づきを促している点が良い。著作権や制度の意義についての理解が深まった一方で、実践力の面ではまだ不十分だと思う。

○子供の感想や実態がよく現れていてよい。また板書計画もわかりやすく、子供達の新聞作りもよい。

○2つの著作権学習を実践した後、「著作権新聞」を自分の言葉で作成することで定着が期待できると思う。「5分でできる著作権教育」や「著作権学習サイト」などの教材を効果的に活用しており、3つのモジュールがセットの学習になって分かりやすいので、他の教員の参考になる。

○子供たちに"著作権を守ることは人を大切にすること"まで教えたのであれば、あと1歩

踏み込んで「それは文化の発展につながる」というところまで教えてもらいたかった。音楽 CD をコピーして人にあげたことがある児童が 30 人中 8 人というアンケート結果は意外と多くて驚いている。

○子どもたちの著作権に対する実態把握も明確で、子どもたちをどのように育てていかなければならないかということも明確にしてあり、そうした上で綿密な指導計画がつけられている。「5分でできる著作権教育」も効果的に活用されている。子どもたち自ら考える場面と教師が指導する場面をバランスよくとっている。板書も適切で、子どもたちがどのように考えたかふりかえりができるようになっている。ただ考えて終わりではなく、3時間目に学んだことを新聞にして発信していることがすばらしい。2時間目までの取り組みが、子どもたちにとってより確かな知識となっていくと思われる。今後は、各教科の学習で子どもたち自身がしっかり実践できること、全校でこのような取り組みを行うことに広げてほしいと思う。